

1 実態調査の概要

(1) 調査の目的

学校や地域及び鹿児島県の特色（郷土に伝わる芸能・遊び・食など）を生かした教育活動について、意識や実施状況等の実態を把握するとともに諸課題を明らかにし、調査研究を進めるための基礎資料を得る。

- ア 郷土学習に対する指導者の意識
- イ 授業における郷土素材の活用の状況
- ウ 学校のある地域の郷土素材の有無及び内容
- エ 郷土素材を取り扱った授業に取り組む、児童生徒の実態
- オ 郷土素材を教材化及び指導する上での配慮事項 等

(2) 調査期間

平成13年9月中旬～10月中旬

(3) 調査対象

地域や学校規模に偏りがないように配慮し、県下全域にわたって幼稚園、学校を抽出した。

幼稚園 20園 小学校 50校 中学校 30校

(4) 調査方法

質問紙法（選択式，一部記述）

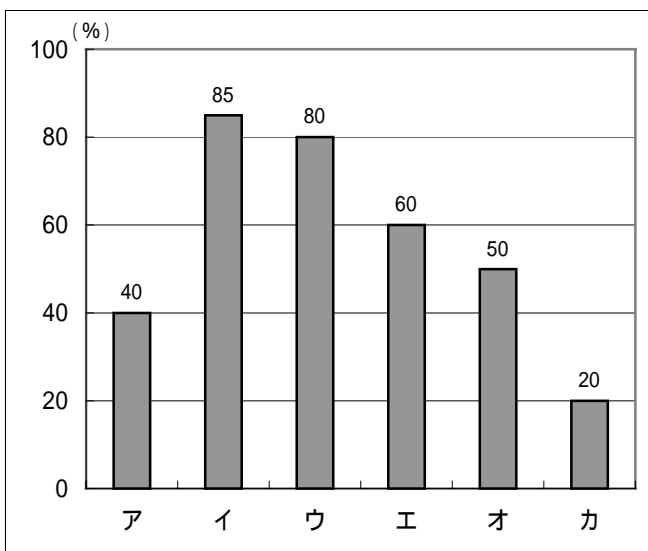
2 実態調査の結果

幼稚園

(1) 郷土学習の振興に対する指導者の意識

現在、鹿児島県では「鹿児島らしい教育」の実現に向け、郷土学習の振興に力を入れています。あなたの園では、幼児に、どのようにして郷土に親しませていきたいと考えていますか。（複数回答可）

- ア 郷土に伝わる遊びを積極的に取り入れていきたい。
- イ 地域の自然を積極的に活用していきたい。
- ウ 地域の人々との交流を積極的に行っていきたい。
- エ 行事などを通して、積極的に地域の文化や伝統に触れさせるようにしたい。
- オ 地域の公共施設などを積極的に活用していきたい。
- カ 食事を通して、郷土料理に親しませるようにしたい。



(分析)

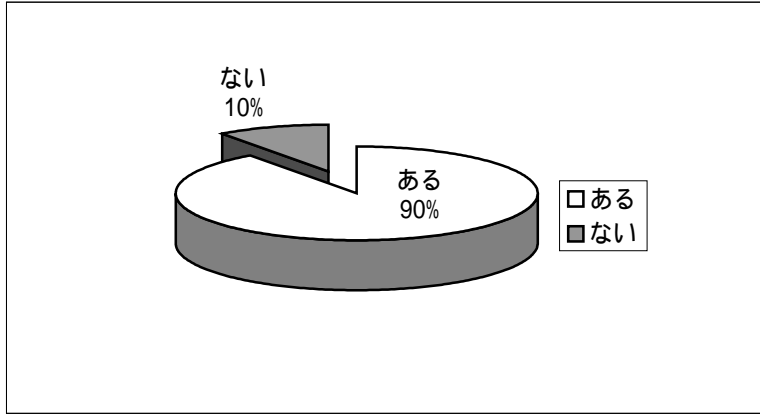
80%以上の幼稚園が、地域の自然や人々の交流を図ろうとしている。このことは、地域の自然、人材、行事や公共施設などを積極的に活用することで幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫するという幼稚園教育要領趣旨に合致している。

ア、カについては数値が低いですが、遊び、音楽、踊りについてはすでに、領域の中に位置付いている。また幼児の生活体験として食は重要である。これらについて郷土学習を推進することは大切なことであると考えます。

(2) 郷土素材の有無

あなたの園のある地域（小学校区，市町村）には，郷土芸能（踊りや音楽など）や昔から伝わる遊び，郷土料理がありますか。

- ア ある
- イ ない



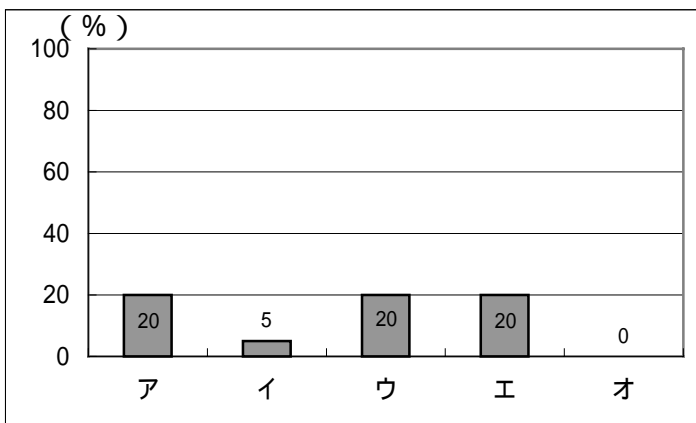
(分析)

90%の幼稚園が，郷土芸能（踊りや音楽など）や昔から伝わる遊び，郷土料理が，それぞれの園のある地域に存在すると答えている。それらの郷土素材を活用した保育を推進するために活用の意義や活用の仕方について示す必要がある。

(3) 郷土の遊び等に取り組んでいる幼児の様子（(2)であると答えた中から）

昔から伝わる遊びをしているときの幼児の様子はどうか。（複数回答可）

- ア 自分たちで更に遊びを工夫して，楽しく遊んでいる。
- イ 毎日のように友達や先生と楽しく遊んでいる。
- ウ 活発に遊ぶ幼児と，全く遊ばない幼児がいる。
- エ 教えてから数日間は遊んでいたが，その後，遊ばなくなった。
- オ ほとんど興味を示さなかった。



(分析)

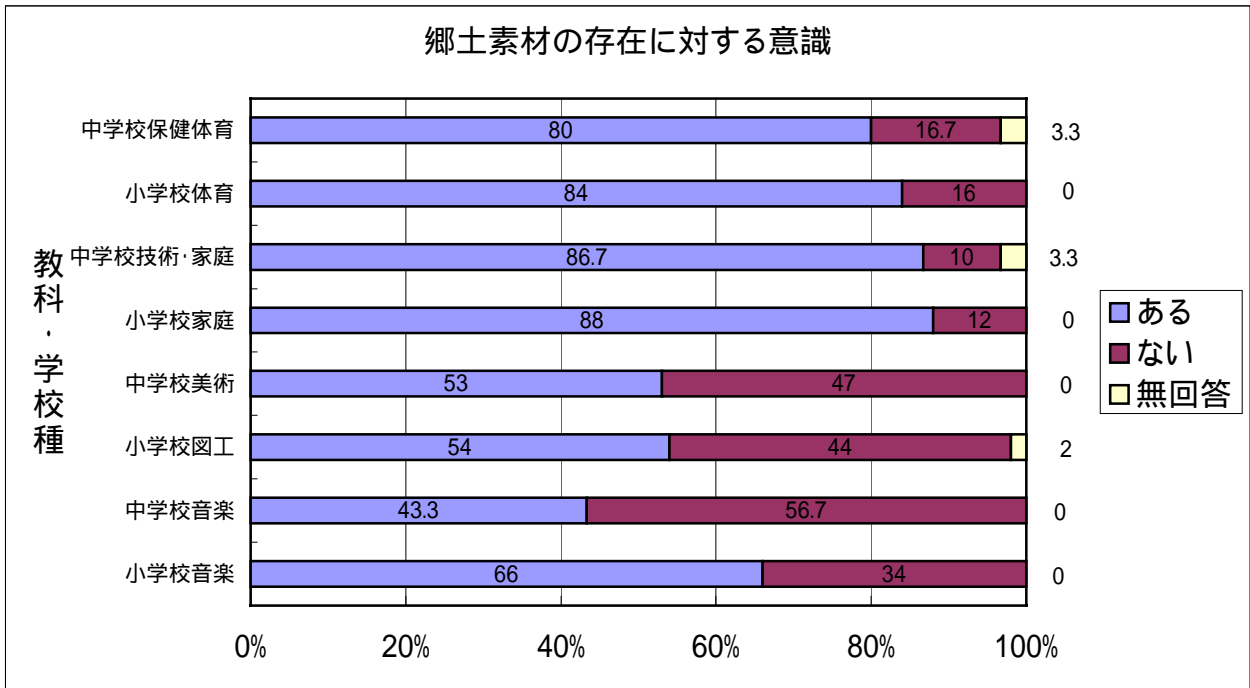
昔から伝わる遊びに取り組んでいると答えた幼稚園の数は14園と7割に達するが，継続した取組になっていなかったり，遊びの数が少なかったりすることが伺われる。郷土の遊びの開発や継続した指導法について示していく必要がある。

小・中学校

(1) 郷土素材の有無

あなたの学校のある地域（校区，市町村）には，郷土素材がありますか。

- ア ある
- イ ない



(分析)

学校のある地域(校区,市町村)にある郷土素材については,踊りなどの伝統芸能や食については把握している様子が見えるが,音楽科,図画工作・美術科においては,約半数が知らないという結果が出ている。これは郷土素材を知らないことだけでなく郷土素材についてのとらえ方がはっきりしていなかったり教材化が難しいので最初から考えなかったりしていることも考えられる。郷土素材についての考え方をはっきりさせるとともに,地域にどんな素材があるのか調べることができる環境整備が必要であると考えられる。

(2) 年間指導計画への位置付け

郷土素材を教材化してそれぞれの指導計画に位置付けているか

ア いる

イ いない

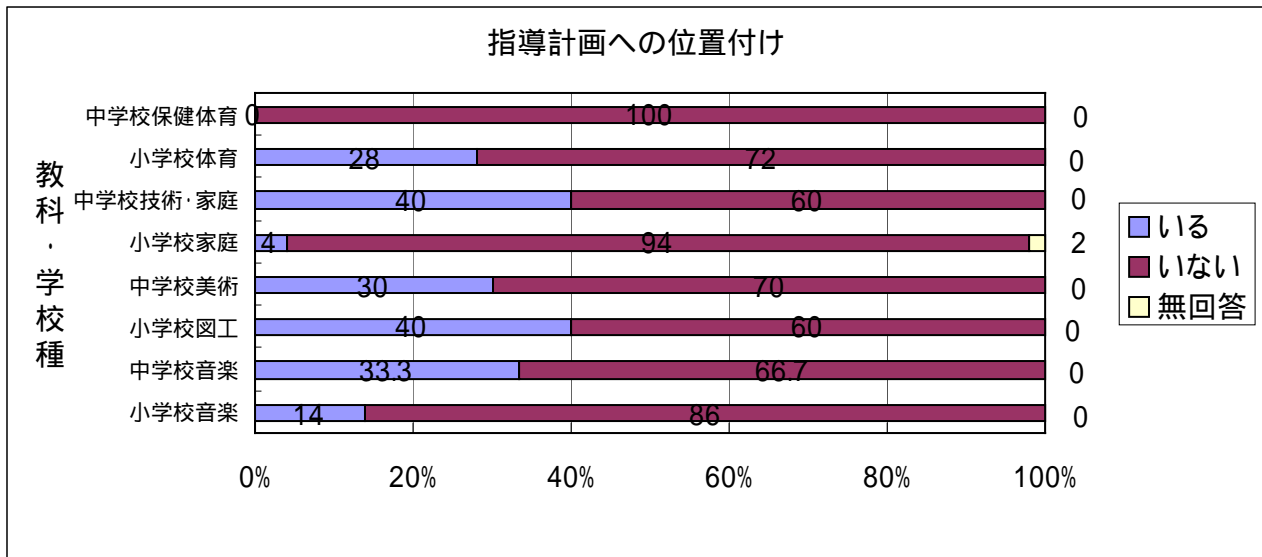


表1 指導計画に位置付けていないわけ(複数回答可)

	音楽科		図工・美術		家庭		体育・保健体育	
	小学校音楽	中学校音楽	小学校図工	中学校美術	小学校家庭	中学校技術・家庭	小学校体育	中学校保健体育
どのような郷土素材を教材化したらいかが分からない	14	30	24	17	6	22	23	11
郷土の素材にはどのようなものがあるか分からない	28	5	18	17	6	6	23	13
もともと教科の年間指導計画に位置付けていない	47	10	26	23	64	44	57	15
どのような方法で教材化すればよいか分からない	21	25	14	3	12	11	27	2
授業時数の関係でこれ以上増やせない	26	25	14	30	30	22	20	43
郷土素材の指導の仕方が分からない	16	20	4	13	6	11	27	19
その他	14	5	0	13	12	22	10	0
無回答	0	5	0	0	8	0	10	19

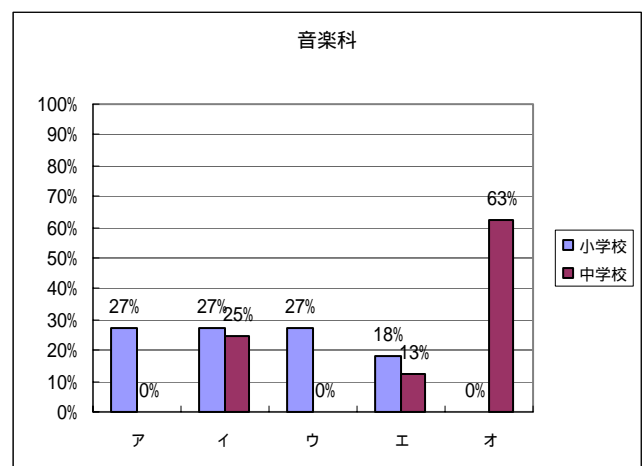
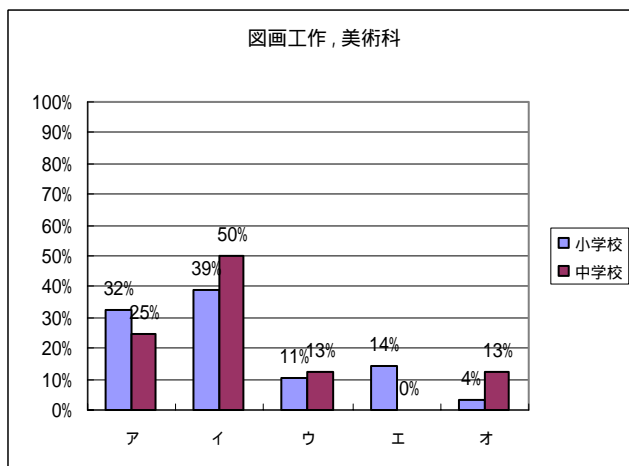
(分析)

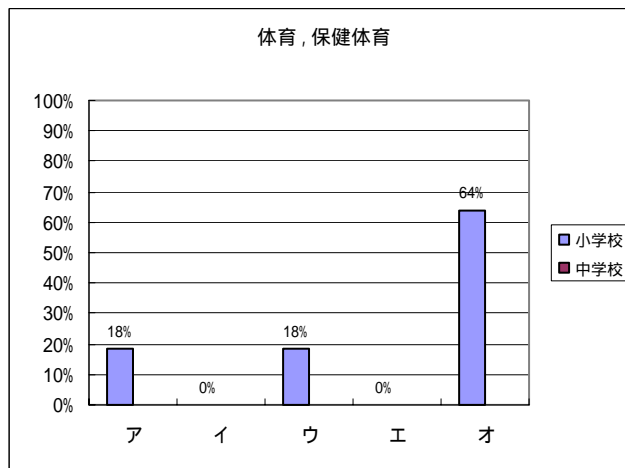
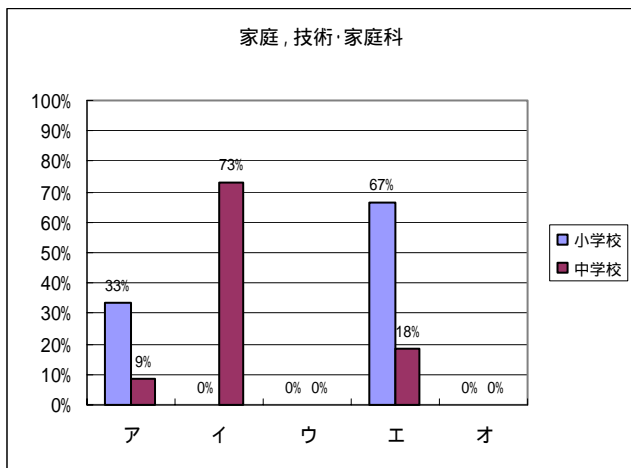
郷土学習の必要性についてはほとんどの教師が感じており、郷土素材が存在すると意識しているが、教材化して指導計画に位置付けてある学校は少ない。その理由としては、「教科の指導計画に位置付けられていないから」「授業時数の関係でこれ以上増やせない」といった項目や「郷土素材の教材化の仕方が分からない」といった項目が多くあげられている。郷土素材の教材化の仕方について示し、実践を通してその成果を示していく必要がある。また、食に関しては、調理の技能から小学校で位置付けることが難しいことによるものであることが考えられる。このように、児童生徒の発達特性や学習指導要領の目標・内容との関連を十分検討していくことが必要である。

(3) 郷土の教材に取り組んでいる児童生徒の様子(指導計画に位置付けられていると答えた中から)

郷土素材に取り組んでいる子どもたちの様子はいかがですか。(複数回答可)

- ア 他の教材での学習よりも、興味や関心をもって意欲的に取り組んでいる。
- イ 他の教材と同じように、興味や関心をもって意欲的に取り組んでいる。
- ウ 郷土素材で学習したことを他の教材での学習にも生かそうとしている。
- エ 他の郷土素材にも興味を持ち、もっと学習したいと考えている。
- オ あまり意欲的な学習への取組は見られないので、指導法を工夫したい。





(分析)

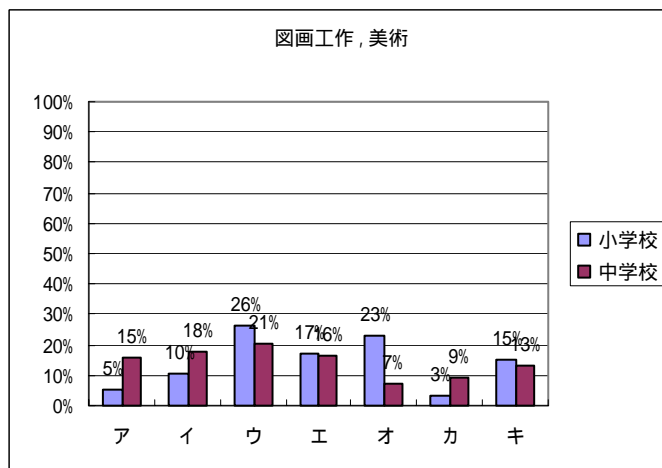
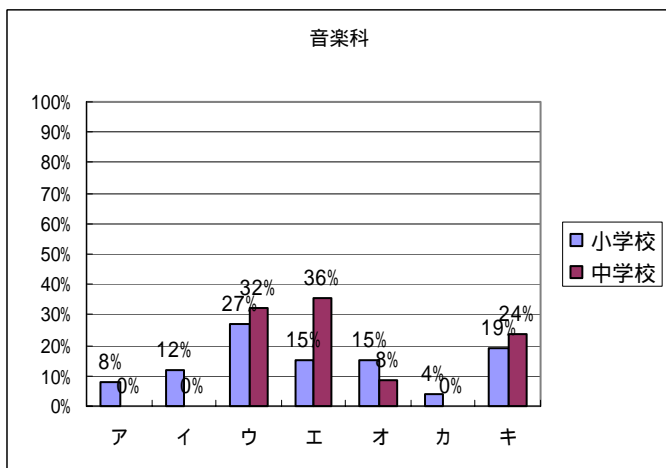
実践や指導計画への位置付けが比較的なされている音楽科や図画工作, 美術科においては, 興味や関心をもって意欲的に取り組んだり, 郷土素材で学習したことを他の教材での学習にも生かそうとしたりする子どもの様子がうかがえる。郷土素材のもつ魅力を十分に引き出すとともに, 何故, 今郷土素材が必要なのか, 教材としての 取扱い方や指導法の工夫・改善も含め, その考え方等を明らかにする必要があると考える。

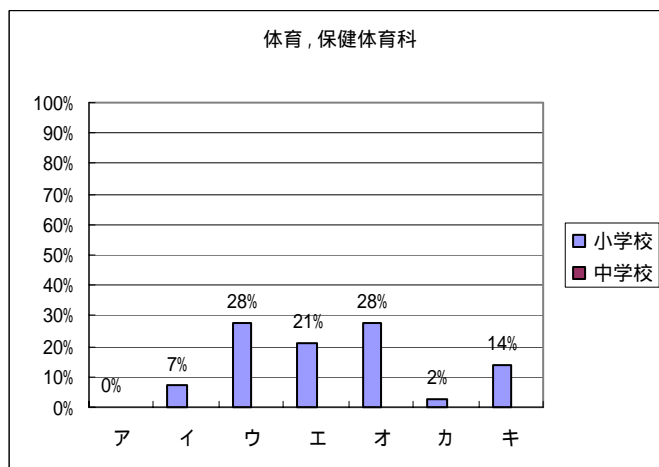
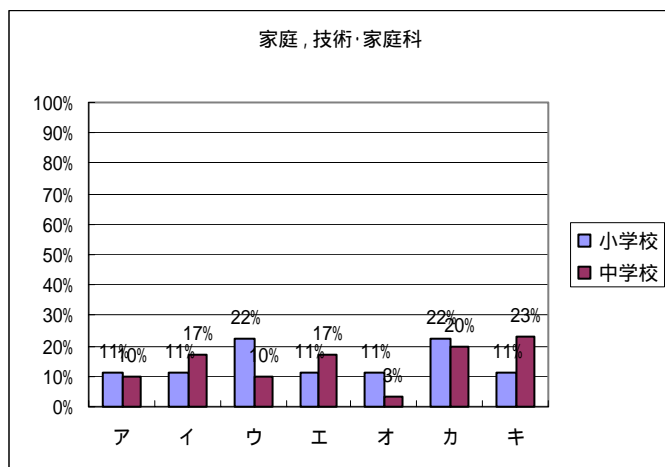
(4) 児童生徒に対する期待 (指導計画に位置付けられていると答えた中から)

郷土素材を教材化することにより, 子どもたちにどのような姿を期待していますか。

(複数回答可)

- ア 基礎・基本をより確かに身に付けてほしい。
- イ 郷土についての学習で学んだことを他の教材の学習にも生かしてほしい。
- ウ 郷土には, 素晴らしい素材が残されていることを知ってほしい。
- エ 郷土で古くから伝承され培われてきた文化や風習, 芸術, 行事等の価値を理解してほしい。
- オ 郷土を愛する心をもってほしい。
- カ 郷土素材等に習熟し, 将来, その後継者になってほしい。
- キ 郷土の学習を通して, 世界にも興味をもってほしい。





(分析)

郷土素材と基礎・基本の関連については、ほとんど意識されていない状況である。しかし、「郷土には、すばらしい素材が残されていることを知ってほしい」「郷土で古くから伝承され培われてきた文化や風習，芸術，行事等の価値を理解してほしい」と願っている指導者が多いので、教材化の在り方等を明らかにしていくことが重要であることが分かる。

3 郷土素材を活用した保育・学習指導推進上の課題

これまでの実態をまとめてみると、次のような課題が挙げられる。

(1) 郷土素材のとらえ方や教材化すべき郷土素材の条件の明確化

幼稚園や小，中学校の各教科で取り上げる郷土素材について、どのようなものをどんな観点から取り上げていけばよいかについて明らかにしていく必要がある。

(2) 幼稚園教育要領，小，中学校学習指導要領との関連の明確化

それぞれ教材化したものを，幼稚園教育要領や小，中学校学習指導要領の目標，内容と照らし合わせてその関連を明確にし，郷土素材を教材化することによって基礎・基本を定着させることができることを示す必要がある。

(3) 教材化の方法の明確化

それぞれの素材の価値を生かす具体的な教材化の方法について示していく必要がある。また，指導法についても実践上の課題を踏まえて具体化する必要がある。